

平成31年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立草加南高等学校)

E15

目指す学校像	困難に挑戦する強い心と豊かな人間性を育み、グローバルな視点をもって社会に貢献する人材を育成する。
--------	--

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実践と知識・技能の習得を、高い次元で融合する学習指導を研究し構築する。 2 生徒ひとり一人の特性を多角的な観点から把握し、自主性を促しつつ成長への適切な指導を組織的に行う。 3 多様な進路実現に向けきめ細かな指導を継続すると共に、大学入試改革に対応できる進路指導を確立する。 4 グローバル人材育成事業やオリ・パラ教育をととして、英語・グローバル教育の一層の充実を図る。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	11名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(令和2年2月1日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○本校生徒ひとり一人の学力を着実に向上させる学習活動を展開したい。その実現には、主体的・対話的で深い学びの手法を取入れた授業実践が必須であり、授業改善に向けた方策の研究が求められる。	○優れた学力の育成と、主体的・対話的で深い学びに着眼した授業改善を実践する。	①授業、部活動、委員会活動等について、教員の目標設定に、主体的・対話的手法を含める。 ②朝の学習、学習支援メディア、家庭学習を活用し、生徒の知識・技能の習得を定着させる。 ③授業改善に資する授業研究を実施し、授業力を向上させる。	①授業アンケートで理解度等に関する回答割合(肯定が80%以上) ②実施の可否 ③実施の可否	○優れた学力の育成と、主体的・対話的で深い学びに着眼した授業改善を実践した。 ①授業理解度の肯定回答55%。 ②朝の学習を週5日実施。スタディーサプリの利用。 ③授業研究・教科研究協議を6月と11月の2回実施。	B	○主体的・対話的手法の導入により深い学びに向けて成果が出てきているが、総じて生徒の授業理解度は下がった。わかりやすい授業法の確立に向けた見直しが急務である。 ○知識・技能の補完に向けてさらに工夫する必要がある。
2	○地域に根差した高等学校として、落ち着いた校風で地域から信頼されている。生徒の進路希望は多様であり、学力分布も広範囲である。生徒ひとり一人の進路実現には、自主性を伸ばし成長させる体制づくりが必要である。	○常に高い意識を持って、日々の活動において挑戦する意欲や自主性を向上させる。	①学校行事、部活動、ボランティア活動を活性化させ、企画立案等や情報発信させる。 ②生徒の情報を学年・分掌等で共有し、組織的に生徒を育成する。 ③eポートフォリオ等の多角的評価システムを活用し、生徒の活動実績等を蓄積させる。	①ボランティア活動地域の行事等への参加(年間10回以上) ②実施の可否 ③実施の可否	○高い意識を持って、挑戦する意欲や自主性を向上させた。 ①介護施設補助や小学校語学補助を年4回実施し、その他、年15件の地域活動に参加。 ②③1・2学年でシステムを導入し、生徒の活動実績を蓄積。学年横断的に情報共有した。	A	○主体的に行動する生徒は増加傾向にある。地域活動等への全生徒参加を目指したい。 ○企業系eポートフォリオにより、生徒の活動実績を蓄積することができたが、今後は校務支援システムとのデータ互換が課題である。
3	○高校3年間を見通した進路指導を整備し、安定して進路実績を向上させる組織体制を確立する。それにより、学力向上、キャリア意識向上を進め、それぞれの進路実現に不可欠な自己能力を向上させる。	○生徒ひとり一人の将来を見据え、体系的かつ組織的な進路指導を展開する。	①長期休業中の大学入試対策講座の参加機会を増やす他、学習施設、関係教材の整備を進める。 ②県外先進校視察を実施し、他校の教育実践を全教員で共有し、指導法を確立する。 ③キャリア意識に係る講演会や分野別ガイダンス等により進路に対する意識を高める。	①②③ ・一般受験者数(大学希望者の60%) ・中堅校合格者数(のべ60名) ①大学入試に向けた対策講習の実施 ②県外先進校4校視察 ③実施の可否	○生徒ひとり一人の将来を見据え、体系的かつ組織的な進路指導を展開した。 ①入試用電子書籍を整備し、対策講習を夏季130講座実施。 ②先進校を4校視察し報告会を通して指導力向上を進めた。 ③キャリア意識の向上をテーマにした講演会を3月に実施。	B	○年間を通して計画的・体系的に、進学希望者対象の大学入試対策講座を展開した。引き続き、大学定員の厳格化に対応する必要がある。 ○先進校視察や報告会を通して、各校の様々な方策を学んだ。今後は自校の教育実践に生かしていきたい。
4	○外国語科を設置する県立高等学校として、本校の特色であるグローバル教育を全面に打出し、国際社会に貢献できる生徒を育成したい。その実現には、外国語使用率の増加、4技能育成が急務である。	○国際社会を見通したグローバル教育、語学学習に係る事業を展開し、外国語の日常的使用を加速させる。	①グローバル教育に係る本校独自の語学行事等を展開し、語学ボランティアを完成させる。 ②海外・語学研修を充実させつつ、大学・研究機関等と連携し語学への意識を一層高める。 ③英語検定に係る語学指導ノウハウを確立し、生徒の意識を向上させ、合格者増を図る。	①行事再編成と新規行事の計画 ②実施の可否 ③参加研修等、及び合格者数(準2級以上100名)	○グローバル教育、語学学習に係る事業を展開し、外国語の日常的使用を加速させた。 ①②語学行事を再編成し、2020オリパラ語学プログラムはJOCより学校賞を受賞した。 ③英検合格者は、語学力向上により第2回までで106名。(準2級87名、2級19名)	A	○語学ボランティアは、全校で取り組むグローバル教育事業として評価された。今後も継続して国際語学ボランティアとして社会貢献に寄与することが、次の課題である。 ○英語検定合格者の増加傾向を維持するため、今後も語学指導技術を向上させたい。

学校関係者評価	
実施日(令和2年2月7日)	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○授業理解度の肯定評価割合については、単年度検証よりも経年変化を見るべきである。授業スタイルが変われば、慣れるのに多少時間はかかる。 ○教員同士の研究協議に、生徒からの意見のフィードバックがあると良い。スピーディーな授業改善には、年に複数回のフィードバックが望ましい。	
○eポートフォリオは大変興味深く、実際の入力内容を見てみたい。大学入試のためと限定せず、生徒の主体的な実績報告として運用した方が良い。 ○ボランティア活動について、より多くの生徒に参加の機会設けてほしい。地域貢献は益々重要視されている。学年単位での参加を考えるのも良い。	
○夏季の入試対策講座について、教員の負担は大変だが、とても有難い。大学入試も変化しているため、画一的な内容でなく質の高さが求められる。 ○意識向上に向けて、生徒の意思決定の場面を大切に活動が望ましい。生徒は自らの気づきがあれば行動できるので、小さな自己決定を積み重ねてゆく活動へのシフトが期待される。	
○継続して行っている語学ボランティアが評価されると、生徒のモチベーションも高まる。訪日外国人に必要な支援を考える観点はとても良く、今後の展開、さらに成果を期待したい。 ○英語検定について、1・2年生全員受検とすることで、合格者数は増加したが、大学入試への利用は不透明である。今後の情報収集が鍵となる。	